北村山のおいしい米づくり情報

令和6年3月21日 発行

# 稲作だより

## ~第1号 育苗準備編~

【発行】北村山農業技術普及課 TEL0237-47-8636, 8637

# 春作業は計画的に!! 適期移植を目指し、種の準備を始めましょう。

#### 1 春作業の予定を立てましょう

移植予定日から逆算し、計画的に塩水選や播種作業を行いましょう。健苗育成のため、 当面の気象を考慮し、ムリやムダのない効率的な作業となるように計画しましょう。

#### 作業スケジュールの目安 <種籾の準備から移植まで>

苗種 (葉齢)	塩水選 種子消毒	浸種	播種時期 (播種量/箱)	育苗期間 (10a 当たり 箱数)	移植時期	
中苗 (3.5葉)	3月下旬 ~ 4月上旬	積算水温 120℃	4月10〜20日 (芽出し籾100〜 140g)	35 日 (30 箱程度)		
稚苗 (2.5葉)	4月上旬 ~ 4月中旬	(目安) 10℃×12日	4月20~30日 (芽出し籾 160~ 200g)	25 日 (25 箱程度)	5月15~25日	
※移植予定日から逆算して計画的に作業を行いましょう。						

#### 2. 塩水選 ≪充実した籾を選びましょう≫

<u>塩水選の前に比重計で塩水の比重を確認</u> しましょう。

塩水選後はよく水洗いし、籾に付着した塩分を取り除きましょう。

調整のめやす(水10 に対して)

うるち米	もち米		
比重 1.13	比重 1.08		
食塩 2.1kg を溶かす	食塩 1.3kg を溶かす		

## 3. 種子消毒 ≪ラベルで使用方法を確認しましょう≫

○薬剤処理

農薬ラベル等で使用濃度や浸漬時間、浸漬後の風乾の有無などを確認し、適正使用を 徹底しましょう。**浸漬時の温度は10℃以上**としましょう。

県内でスポルタック剤(プロクロラズ剤)耐性ばか苗病菌が確認されています。前年 にスポルタック剤を使用してばか苗病が発生した場合には、他の薬剤(テクリード C フロアブル(イプコナゾール剤)等)に変更してください。 また、耐性菌出現防止のため、同じ種子消毒剤の連年使用は避けましょう。

○温湯消毒(うるち品種のみ)

温湯浸法は、処理方法を誤ると効果が得られなかったり、発芽率が低下したりします。個人で実施する際には、山形県農作物病害虫防除基準を参考にし、塩水選後の処理や浸漬温度、浸漬時間などに注意しましょう。

初めて取り組む方は、最寄りの農協、普及課等にご相談下さい。

#### ≪温湯消毒した種子の取り扱いについて≫

温湯消毒種子は無菌状態のため、病原菌が付着しないよう注意が必要です。

温湯消毒後は速やかに浸種しましょう。すぐに浸種できない場合は、通風乾燥機等で籾水分を15%まで低下させ、清潔な場所に保管してください。

## 4. 浸種 ≪温度に注意し発芽をそろえましょう≫

- ①浸種水温は、10<sup>°</sup>C以上、15<sup>°</sup>C未満を維持してください。(15<sup>°</sup>Cを超えると、ばか苗病の発病率が高くなります)
  - ※特に最初に水漬けた時の水温が低すぎる(5  $\mathbb{C}$ 以下)と発芽率が低下する恐れがあります。水温が  $10\sim15$   $\mathbb{C}$  であることを必ず確認してから、種子を水に漬けましょう。
- ②品種ごとにラベルを付ける、色違いの網袋を利用するなど、異品種の混入(コンタミ)に注意しましょう。
- ③水道水等のきれいな水を使用し、水量は種籾の2倍量以上とし、酸素補給と雑菌繁殖防止のため2~3日おきに水を交換しましょう。
- ④種籾は小分けし、時々上下を入れ替えるなどし、浸漬中の温度ムラを防ぎましょう。

#### 浸種期間の目安

品 種 名	積算水温	浸種日数
	很异小血	水温10℃
つや姫、雪若丸、はえぬき、ひとめぼれ、 あきたこまち、コシヒカリ	1 2 0 ℃	12日
ササニシキ、ヒメノモチ、こゆきもち	1 0 0 ℃	10日

※令和5年産の種子は、高温で登熟した影響で休眠が深い可能性があります。目安 となる浸種の水温・日数・積算温度を必ず確保しましょう。

#### 5. 催芽 ≪伸ばしすぎに注意≫

催芽温度は30~32℃が適温で、芽(鞘葉)と 根が1mm出たハト胸状態にします(右図)。

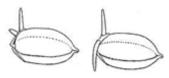
十分に浸種した籾であれば、約20時間でハト 胸状態となりますが、令和5年産種子は発芽に 時間がかかる可能性があります。必ず9割以上 の芽切れとなるまで催芽を行いましょう。

## 6. 土づくり≪気象変動に備えましょう≫

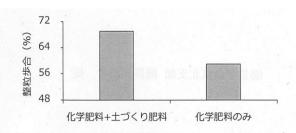
土づくり肥料を毎年施用している圃場では、令和5年の猛暑でも整粒歩合の低下が軽減されました。気象変動に負けない米づくりのために、土づくり肥料(目安:ケイカル120kg/10a、ようりん30kg/10a)を積極的に施用しましょう。



○ハト胸状態



×伸ばしすぎの状態



(はえぬき、農業総合研究センター、令和5年) ※毎年ようりん30kg/10a、ケイカル150kg/10a施用